



支援室だより

大阪府立思斉支援学校
令和8年度 第1号

今年度の支援室だよりは、思斉支援学校での様々な取り組みを年間6回の発行で紹介します。この「支援室だより」が思斉支援学校の様子を知っていただく機会となり、先生方の指導・支援のヒントになれば幸いです。

本校では、小学部新1年生と新4年生、中学部新1年生の各家庭にS-M社会生活能力検査を配付し、回答をお願いしています。その後、学校で結果の解釈を行い、保護者と共有し、指導・支援に役立てています。そこで今回は「S-M社会生活能力検査」について紹介します。

S-M 社会生活能力検査とは

S-M社会生活能力検査は、乳幼児～中学生の子どもの社会生活能力（自立と社会参加に必要な生活への適応能力）を測定する検査で、子どもたちへの支援の手がかりを得ることができます。子どもの日常生活をよく知る大人（保護者や担任）が回答します。



検査の構成

身辺自立【SH】：衣服の着脱、食事、排せつなどの身辺自立に関する能力

移動【L】：自分の行きたい所へ移動するための能力

作業【O】：道具の扱いなどの作業遂行に関する能力

コミュニケーション【C】：ことばや文字などによるコミュニケーション能力

集団参加【S】：社会生活への参加の具合を示す能力

自己統制【SD】：わがまを抑え、自己の行動を責任を持って目的に方向づける能力

結果が出たら…

懇談等でご家庭と結果を共有しますが、以下の点に注意します。

- ・検査の目的について説明する。（本人へ支援に役立てるために実施していることを伝える。）
- ・本人の日頃の様子と関連させながら結果を伝える。
- ・獲得できていないスキルだけでなく、できていることや得意なことについても共有する。
- ・今後の指導・支援について「一緒に」考えて確認する。



〇〇が得意ですね。
今後は□□□も
のばしていきましょう。

最後に

検査は実施することや採点することが目的ではありません。結果を通して、本人の現在の状況や支援の方向性を明らかにすることが大切です。検査に対して「嫌だな…。」「遅れを知らされているみたい。」と感じるご家庭もあると思います。そのことを十分に理解したうえで、丁寧に検査の目的を伝え、指導・支援について一緒に考える手掛かりにしましょう。



思斉支援学校 HP